

社会福祉法人『以和貴会』定款

第1章 総則

(目的)

第1条 この社会福祉法人(以下「法人」という。)は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、又はその有する能力に応じ自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として次の社会福祉事業を行う。

(1)第1種社会福祉事業

障害者支援施設の経営

(2)第2種社会福祉事業

- (イ) 障害福祉サービス事業の経営
- (ロ) 一般相談支援事業の経営
- (ハ) 特定相談支援事業の経営
- (ニ) 障害児相談支援事業の経営
- (ホ) 障害児通所支援事業の経営
- (ヘ) 移動支援事業の経営

(名称)

第2条 この法人は、社会福祉法人以和貴会という。

(経営の原則)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

(事務所の所在地)

第4条 この法人の事務所を奈良県香芝市尼寺 616 番地に置く。

第2章 役員及び職員

(役員の定数)

第5条 この法人には、次の役員を置く。

- (1)理事 8 名
- (2)監事 2 名

2 理事のうち 1 名は、理事の互選により、理事長となる。

- 3 理事長は、この法人を代表する。
- 4 役員を選任にあたっては、各役員について、その親族その他特殊の関係がある者が、理事のうちに1名を超えて含まれてはならず、監事のうちにこれらの者が含まれてはならない。

(役員任期)

- 第6条** 役員任期は2年とする。ただし、補欠の役員任期は、前任者の残任期間とする。
- 2 役員は再任されることができる。
 - 3 理事長任期は、理事として在任する期間とする。

(役員選任等)

- 第7条** 理事は、評議員会において選任し、理事総数の3分の2以上の同意を得て、理事長が委嘱する。
- 2 監事は、評議員会において選任する。
 - 3 監事は、この法人の理事、職員及びこれらに類する他の職務を兼任することができない。

(役員報酬等)

- 第8条** 役員報酬については、勤務実態に即して支給することとし、役員地位にあることのみによつては、支給しない。
- 2 役員には費用を弁償することができる。
 - 3 前2項に関して必要な事項は、理事会の議決を経て、理事長が別に定める。

(理事会)

- 第9条** この法人の業務の決定は、理事をもって組織する理事会によって行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。
- 2 理事会は、理事長がこれを召集する。
 - 3 理事長は、理事総数の3分の1以上の理事又は監事から会議に付議すべき事項を示して、理事会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から1週間以内にこれを召集しなければならない。
 - 4 理事会に議長を置き、議長はその都度選任する。
 - 5 理事会は、理事総数の3分の2以上の出席がなければ、その議事を開き、議決することができない。
(2) 前項の場合において、あらかじめ書面をもって、欠席の理由及び理事会に付議される事項についての意思を表示した者は、出席者とみなす。
 - 6 理事会の議事は、法令に特別の定めがある場合及びこの定款に別段の定めがある場合を除き、理事総数の過半数で決定し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
 - 7 理事会の決議について、特別の利害関係を有する理事は、その議事の議決に加わることができない。
 - 8 議長及び理事会において選任した理事2名は、理事会の議事について議事の経過の要領及びその結果を記載した議事録を作成し、これに署名又は記名押印しなければならない。

(理事長職務の代理)

- 第10条** 理事長に事故あるときは、又は欠けたときは、理事長があらかじめ指名する他の理事が順次

に理事長の職務を代理する。

- 2 理事長個人と利益相反する行為となる事項及び双方代理となる事項については、理事会において選任する他の理事が理事長の職務を代理する。

(監事による監査)

第11条 監事は、理事の業務執行の状況及び法人の財産の状況を監査しなければならない。

- 2 監事は、毎年定期的に監査報告書を作成し、理事会、評議員会及び香芝市長に報告するものとする。
- 3 監事は、前項に定めるほか、必要があると認める時は、理事会及び評議員会に出席して意見を述べるものとする。

(職員)

第12条 この法人に職員若干名を置く。

- 2 この法人の設置経営する施設の長(以下「施設長」という。)は、理事会の議決を経て、理事長が任免する。
- 3 施設長以外の職員は、理事長が任免する。

第3章 評議員及び評議員会

(評議員会)

第13条 評議員会は、17名の評議員をもって組織する。

- 2 評議員会は、理事長が招集する。
- 3 理事長は、評議員総数の3分の1以上の評議員又は監事から会議に付議すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、その請求の会った日から20日以内に、これを召集しなければならない。
- 4 評議員会に議長を置く。
- 5 議長はその都度評議員の互選で定める。
- 6 評議員会は、評議員総数の過半数の出席が無ければ、その議事を開き、議決する事が出来ない。
- 7 評議員会の議事は、評議員総数の過半数で決し、可否同数の時は、議長の決するところによる。
- 8 評議員会の決議について、特別の利害関係を有する評議員は、その議事の議決に加わる事が出来ない。
- 9 議長及び評議員会において選任した評議員2名は、評議員会の議事について議事の経過の要領及びその結果を記載した議事録を作成し、これに署名又は記名押印しなければならない。
- 10 評議員の報酬については、勤務実態に即して支給することとし、評議員の地位にあることのみによっては、支給しない

第14条 評議員会は、次に掲げる事項を審議する。

- ① 予算、決算、基本財産の処分、事業計画及び事業報告
- ② 予算外の新たな義務の負担又は権利の放棄

- ③ 定款の変更
- ④ 合併
- ⑤ 解散（合併又は破産による解散を除く。以下この条において同じ。）
- ⑥ 解散した場合における残余財産の帰属者の選定
- ⑦ その他、この法人の業務に関する重要事項で、理事会において必要と認める事項

2 理事会は、前項に掲げる事項を決定しようとする時は、原則としてあらかじめ評議員会の意見を聴かなければならない。

第15条 評議員会は、この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況について、役員に対して意見を述べ若しくはその諮問に答え又は役員から報告を徴する事が出来る

（評議員の資格等）

第16条 評議員は、社会福祉事業に関心を持ち、又は学識経験あるもので、この法人の趣旨に賛成して協力するものの中から理事会の同意を経て、理事長がこれを委嘱する。

2 評議員の委嘱に当たっては、各評議員について、その親族その他特殊の関係がある者が3名を超えて含まれてはならない。

（評議員の任期）

第17条 評議員の任期は2年とする。但し、補欠の評議員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 評議員は、再任されることができる。

第4章 資産及び会計

（資産の区分）

第18条 この法人の資産は、これを分けて基本財産と運用財産、公益事業用財産の3種とする。

2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

(1) 土地

(イ) 障害者施設「ゆらくの里」敷地

奈良県香芝市尼寺 616 番 (2,677.68 m²)

同 所 628 番 (2,006.61 m²)

同 所 614 番-3 (776.38 m²)

同 所 681 番 (12.31 m²)

(ロ) ボノボビル敷地

奈良県香芝市磯壁一丁目 1 0 5 7 番 3 (633.35 m²)

奈良県香芝市磯壁一丁目 1 0 6 2 番 1 0 (181.45 m²)

(ハ) 共同生活援助事業「風鈴山荘」敷地

奈良県香芝市尼寺 609 番 3 (1134.17 m²)

同 所 613 番 1 (994.35 m²)

(2) 建物

(イ) 知的障害者更生施設(入所)ゆらくの里建物

所在地 奈良県香芝市尼寺 616 番地、613-1 番地

構造 鉄筋コンクリート造、スレート葺、二階建

延面積 2,448.53 m²

(ロ) 知的障害者更生施設(入所)ゆらくの里作業棟

所在地 同所・同番地

構造 鉄筋造亜鉛メッキ銅板葺平屋建

延面積 68,96 m²

(ハ) ボノボビル建物

所在地 奈良県香芝市磯壁一丁目 1057 番地 3

構造 鉄筋コンクリート造陸屋根 4 階建

延面積 1,302.25 m²

(ニ) 共同生活援助「風鈴山荘」建物

所在地 奈良県香芝市尼寺 609 番地 3、613 番地 1

構造 木造合金メッキ鋼板ぶき平屋建

延面積 499.9 m²

3 運用財産は、基本財産、公益事業用財産以外の財産とする。

4 公益事業用財産は、第 27 条に掲げる公益を目的とする事業の用に供する財産とする。

5 基本財産に指定されて寄付された金品は速やかに第 2 項に掲げるため、必要な手続きをとらねばならない。

(基本財産の処分)

第 19 条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事総数の 3 分の 2 以上の同意を得て、香芝市長の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、香芝市長の承認は必要としない。

1 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合

2 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。）に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合（協調融資に係る担保に限る。）

(資産の管理)

第 20 条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。

(特別会計)

第 21 条 この法人は、特別会計を設けることができる。

(予 算)

第22条 この法人の予算は、毎会計年度開始前に、理事長において編成し、理事総数の3分の2以上の同意を得なければならない。

(決算)

第23条 この法人の事業報告書、財産目録、貸借対照表及び収支計算書は、毎会計年度終了後2ヵ月以内に理事長において作成し、監事の監査を経てから、理事会の認定を得なければならない。

2 前項の認定を受けた書類及びこれに関する監事の意見を記載した書面については、各事務所に備えて置くとともに、この法人が提供する福祉サービスの利用を希望する者その他の利害関係人から請求があった場合には、正当な理由がある場合を除いて、これを閲覧に供してなければならない。

3 会計の決算上繰越金を生じた時は、次会計年度に繰り越すものとする。ただし、必要な場合には、その全部又は一部を基本財産に編入することができる。

(会計年度)

第24条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終る。

(会計処理の基準)

第25条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規定により処理する。

(臨機の措置)

第26条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意がなければならない。

第5章 公益を目的とする事業

(種別)

第27条 この法人は、社会福祉法第26条の規定により、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することなどを目的として、次の事業を行う。

(1) 日中一時支援事業の経営

2 前項の事業の運営に関する事項については、理事総数の3分の2以上の同意を得なければならない。

(剰余金が出た場合の処分)

第28条 前条の規定によって行う事業から剰余金が生じた場合は、この法人の行う社会福祉事業又は公益事業に充てるものとする。

第6章 解散及び合併

(解散)

第29条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第30条 解散(合併又は破産による解散を除く)した場合における残余財産は、理事総数の3分の2以上の同意によって、社会福祉法人のうちから選出されたものに帰属する。

(合併)

第31条 合併しようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意を得て、香芝市長の認可を受けなければならない。

第7章 定款の変更

(定款の変更)

第32条 この定款を変更しようとするときは、理事総数の3分の2以上の同意を得て、香芝市長の認可(社会福祉法第43条第1項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。)を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を香芝市長に届け出なければならない。

第8章 公告の方法その他

(公告の方法)

第33条 この法人の公告は、社会福祉法人以和貴会の掲示場に掲示するとともに、新聞に掲載して行う。

(施行細則)

第34条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

附 則

この法人の設立当初の役員は、次の通りとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員を選任を行うものとする。

理事長	下村	幸監
理 事	水口	純一
理 事	長谷川	芳治
理 事	田畑	忠太郎
理 事	大門	正佳
理 事	田尻	昌盟
理 事	田尻	匠
監 事	福森	平
監 事	武島	孝臣

平成16年3月23日付けの定款変更の認可申請にともない設置した評議員会は、第17条の規程に関わらず、評議員設置当初の評議員の任期に限り、平成18年3月29日までとする。

社会福祉法人 以和貴会 定款細則

定款第9条第1項ただし書きに定める理事長が専決する日常の業務とは、次に掲げる事項を細則として定める。

- 1 「施設長の任免その他重要な人事」を除く職員の任免。
- 2 職員の日常の労務管理、福利厚生に関すること。
- 3 債権の免除・効力の変更のうち、当該処分が法人に有利であると認められるもの、その他やむを得ない特別の理由があると認められるもの。
ただし、法人運営に重大な影響があるものを除く。
- 4 設備資金の借入に係る契約であって予算の範囲内のもの。
- 5 建設工事請負や物品納入等の契約のうち次のような軽微なもの。
 - ア 1件160万円未満の日常的に消費する給食材料、消耗品等の日々の購入
 - イ 1件250万円未満の施設整備の保守管理、物品の修理等
 - ウ 緊急を要する物品の購入等
- 6 基本財産以外の固定資産の取得及び改良等のための支出並びにこれらの処分。
ただし、法人運営に重大な影響があるものを除く。
- 7 損傷その他の理由により不要となった物品又は修理を加えても使用に耐えないと認められる物品の売却又は廃棄。
ただし、法人運営に重大な影響がある固定資産を除く。
- 8 予算上の予備費の支出。
- 9 入所者・利用者の日常の処遇に関すること。
- 10 入所者の預り金の日常の管理に関すること。
- 11 寄附金の受入に関する決定。
ただし、法人運営に重大な影響があるものを除く。

附則 この定款細則は平成25年4月1日より施行する。